

広管の竹をし

自己紹介 ち自分の広管をしこいて

と感い、呼ぶ

広管 いろいろを 表現が

よくするが 化粧品の 使用法 使用法

の 内容

い 匠み 止すは これを 綴って

人 主が 妻の 匠 が

し ツテル け 昔から 匠の 匠

表面を 美しい 織り 木とを つけ

甲の ぶさ を アツセ して いる

最近 高か ったの け

管器 その 木が 広管に なる

陶器を 保つて いる

その 管器の 美しさ 木目 を びく

毛糸の 水れん の 結は

見た ところ で 二れい 守と 思

コ、口ツバの 野菜子 其の 入れ物が

何れ 分る ところ と 高さを

木れ 中の 入れ物を うまく 保って いる

片手の中は

すくほり入る

オラニギハヤヒ

白地にブルの絵がいい

子で帝國のよりに思う 赤いつばき

万葉のデニマリウ 94ヨコウキ

入れ物おめずらしい

何かの中に入れものに 作るおもしろいと

興味が少く

472スル 小 びり くら 習う ともいひお存

と 47番のせられしきうに

2024
8/25